

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 虹色		
○保護者評価実施期間		R8年1月20日	～ R8年1月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間		R8年2月2日	～ R8年2月6日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	R8年2月6日		

## ○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・併設している園に在籍している子どもが主なため、園の担任や主幹との連携を日頃から自然に取ることが出来る。	・利用児が毎日過ごす場である園を活動の中心に考えて支援計画を立てることで、汎化しやすく、実際の生活の場で自然と活動に参加できるようサポートを行えるように取り組んでいる。	・併設している園との情報共有をさらに強化し、日常的にも困り感の解消につながるようなサポートを出来るようにしていきたい。
2	・併設している園で実際に困っていることを、実際の現場で（行事参加やカリキュラムの個別サポート等）連携してサポートすることが出来る。	・発達の土台として感覚統合を大切にし、遊びの中で全身から指先まで使っていろいろな感覚刺激を受ける活動に取り組むようにしている。	・SNSなどのツールも有効利用し、保護者等への虹色の活動内容をもっと知ってもらう機会を増やしていく。
3	・支援後、保護者だけではなく、担任の先生へもその日の活動内容を伝えることで、利用児の現状や今後の課題への取り組み方の共通認識を図ることが出来る。	・支援後の振り返りの時間を大切にし、子どもの最善の利益のために情報共有や職員みんなでチームとなり取り組んでいる。	・職員のスキルUPのための研修や話し合いの場をもっと増やしていきたい。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・在籍している職員が保育教諭のみのため、言葉で困っている子どもへのサポートが行き届かない現状がある。	・言語聴覚士やリハビリ系の専門家の不足。	・言語聴覚士さんからのアドバイスが貰える機会を見つかり、研修を探したりし、言語聴覚士が常駐しなくても言葉で困っている子どもへのサポートにも日頃から力を入れられるようにする。
2	・支援内容を一生懸命考えるあまり、1人の支援準備に時間を有しすぎてしまっている。	・支援の計画を立てる際に、経験がある場合はシミュレーションを行いやすいが、現場が初めての職員だと、やはり療育と保育の違いに戸惑ってしまう様子。	・他の職員の支援内容を見学したり、真似たりしながら支援内容のやり方の獲得を目指せるよう時間を確保できるようにする。
3	・昨年度新設のため、子どもの最善の利益のために改善を重ね模索しながらの体制である。	・新設にあたって準備は進めてきてはいたが、新規の職員での立ち上げには、軌道に乗るまでに時間も経験も必要	・研修や学ぶ時間を確保し、常に子どもの最善の利益の為に努め続ける。

## 公表

## 保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名	児童発達支援事業所 虹色
------	--------------

公表日 R8年 2月 27日

利用児童数 2

回収数 2

		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	2					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	2					
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	2					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	2					
適切な支援の提供	5	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	2					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	2					
	7	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	2					
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	2					
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	2					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	2					
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	2					
保護者への説明等	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	2					
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	2					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	1			1		・今現在、ペアトレ等の研修に積極的に参加し、職員側の体制を整え準備している状態です。
	15	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解がでていると思いますか。	2					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	2					
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	2					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	1			1		・共働きのご家庭も多く、改めて日程を立てさせてはいただいておりませんが、保護者の方々が参加される併設園行事の際などを交流の場とさせていただいております。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	2					
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	2					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	2					

	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	2					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	2					
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	1			1		・併設園と連携を取りながら、非常時に備え、必要に応じた訓練に参加しております。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	2					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	2					
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	2					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	2					
	29	事業所の支援に満足していますか。	2					

## 公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	児童発達支援事業所 虹色
------	--------------

公表日 R8年 2月 27日

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8		・利用児の活動内容や状況によって部屋を使い分けることが出来るようしている。	
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8		・新しく入職した職員も、職員同士で見守りながら行うようにしている。	
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8		・スケジュールやワークシステムの活用をしている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	8		・毎日、又は定期的に清掃を行っている。	
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8		・クールダウンの部屋を設けている。	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8		・支援後、毎回振り返りをするようにしている。	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8			・保護者との時間をもっと多く作れるよう工夫や努力が必要。
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8		・話し合いの時間を確保できるようゆとりのある時間確保に心がけている。	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		8	・併設している幼稚園の在園児が主なため担任や主幹、副園長等と連携を密に取るよう心がけている。	
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8		・外部研修にも積極的に参加するように心がけている。	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8			・定期的な見直しも出来るようにしたい。
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8		・併設している幼稚園の在園児が主なため担任や主幹、副園長等と連携を密に取るよう心がけている。	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8		・虹色職員を含め、併設している幼稚園の在園児が主なため担任や主幹、副園長等と連携を密に取るよう心がけている。	
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8		・個人ファイルにある1人1人の発達段階に応じた計画表と照らし合わせながら有効利用するよう心掛けている。	
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8		・太田ステージ、遠城寺式の活用 ・併設園との情報の共有や連携	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8		・併設している幼稚園での様子や保護者からの聞き取りを大事にするように心がけている。	
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8			・もっと職員全体で立案出来るよう時間を有効活用していきたい。
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		・色々な職員が考えることで固定化しないように心がけている。	
	19 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8		・子どもの状況に合わせながら、共通して感覚統合に力を入れ支援を行っている。	

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		・1人で取り組むのではなく、出来る限りチームで支え合いながら取り組めるように心がけている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8		・毎日、振り返りを行っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8		・日々、支援の記録を細かくわかりやすくとることを心がけている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8			・適切なタイミングで、適切にモニタリングが行えるようにしたい。
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8		・併設する幼稚園の在園児が主なため、日々園との情報交換に努めている。	・園との情報共有等は毎日のように行っているが、併用先との連携も今後密にしていきたい。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8		・併設する幼稚園の在園児が主なため、日々園との情報交換に努めている。	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8		・併設している園に在籍している子どもが多いため、行事に向けての練習参加や、クラス内の困りごと、必要に応じて園在籍の職員等への支援参加の協力を得られるよう心掛けている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8			・相互理解のために、積極的に情報交換の場に参加したい。
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	8			・必要に応じて、もっとスーパーバイズや助言等を受ける機会を増やしていきたい。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	8		・行事に向けての練習参加や必要に応じて園在籍の職員等への支援参加の協力を得られる機会を作っている。	
	33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8		・お迎え時にお声掛けしたり、事業所内相談を行い、保護者と情報交換が行えるように努めている。	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8			・もっともっと職員のスキルUPを目指しペアトレを実践できるようにしていきたい。
保護者への説明等	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8		・ゆっくり時間を設け、きちんと説明できるよう心掛けている。	
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8		・アセスメントを重視し、子どもや保護者の困り感や意思を尊重しながら作成するように努めている。	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8		・保護者の方が理解しやすいように、計画書の文言にプラスしながらわかりやすく説明するよう心がけている。	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8		・事業所内相談を定期的に開催するように心がけている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	8		・併設している幼稚園の在園児が主なため、行事の際などを通して、交流の機会を設けられるよう心がけている。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8		・併設している園の在園児が主なため、虹色職員と同様に園とも情報共有等を行い対策を行えるよう心掛けている。	

●	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8		・支援後は通信等を活用し、情報提供を行うようしている。	・SNS等の活用をもっと活発的に行っていきたい。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8			・日頃から留意しているが、SNSの活用の際は、より留意するよう心がけたい。
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8		・意思の疎通のためのアドバイスを行ったり日頃の活動内容（絵カードの活用）の現状を伝えたりするように心がけている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	8		・併設している園にて運動会や卒園式などへの招待を行い地域に開かれた事業運営を図れるよう心がけている。	
●	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8			・発生を予定した訓練を実施した際には、保護者にもわかりやすくお知らせ出来るように工夫することを検討。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8			・定期的に訓練を行うことと同時に、日頃より色々な事案を想定しておく。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8		・契約時に、持病やアレルギーの確認を行うようしている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		・契約時に、持病やアレルギーの確認を行なうようにしている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8		・ヒヤリハット、アクシデント、インシデントについて、共通認識を持てるよう研修を行っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8		・契約時に、避難場所等の説明をしっかりと行なうようにしている。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8		・ヒヤリハット、アクシデント、インシデントについて、共通認識を持てるよう研修を行っている。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		・日頃より、こどもたちへの対応の仕方について職員間で話し合いの場を設け、適切な対応に心がけている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8		・身体拘束を行うにあたっての研修を通して共通認識を持てるように心がけている。	